

北海道再生!!

—人に温かい道政—

道政ニュース



高橋とおる

発行 2014年秋～冬号 No.42

高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号

TEL・FAX 47-0867

道議会議員定数問題

第三回道議会最終日に、議員定数条例改正案が議員提案され、可決に至りました。

議員定数のあり方について「道議会定数問題検討委員



2015年度末までに開業する北海道新幹線用の車両がいよいよ北海道上陸（10月13日）

会」は、これまで大学教授や道町村会事務局長等四名からなる外部委員会を設置し、定数のあり方について協議をしていただく他、パブリックコメントも募集して得た広範な意見を基に、外部委員会とも数度の渡り議論を重ねてきました。この中で、議会側から、広域分散型の北海道において、一票の格差を唯一の基準とするならば、過疎が進む地域の議席が失われ、札幌市や都市部の議席だけが残ることになることから、①政令市・中核市の定数を抑える、②人口だけではなく面積要件や選挙区内の自治体数も加味する、③比例制の導入も検討すること等を提言しましたが、外部委員からは、①国政の場でも一票の格差で裁判が起こり、違憲の判決が出ている、②法の下の平等を覆す根拠は無い、③公選法の改正で、都道府県が独自の定数を定めることが出来るようにすべき等の意見が出たことから、道議会としては公選法改正について、国へ数度の要請を行いました。

結果、未だに抜本的解決には至っていませんが、一部改正があり、次々回以降の選挙から生活圏を重視して、今までの市および振興局単位の選挙区を、この限りではない選挙区にすることが可能になりました。

さて、来年の道議会議員選挙ですが、私は、今回当選させていただいた時から、中核市である函館市の定数を抑制し、地方の議席を確保すべきと発言していましたが、函館市の定数一名減は当然と思っています。

これからも、北海道における議員定数のあり方や、抜本的な見直しを引き続き進めていこうと思います。

北海道議会議員 高橋 亨

第三回定例道議会報告

道議会第三回定例会は九月九日に開会、二十六年年度補正予算案、議員定数条例改正案など議案三十五本を審議・可決し、「北海道電力の電気料金値上げ幅の見直し等に関する意見書」「土砂災害防止対策の推進に関する意見書」「私学助成制度に係る財政措置の充実強化に関する意見書」など七本の意見書を採択し、十月三日に閉会しました。政審の責任者として、今回の代表質問を策定するにあたり、「アベノミクスの実態」「電気料金再値上げの影響」「道内の土砂災害を含む防災対策」「道州制法案」「人口減少問題への取り組み」「カジノを含む統合型リゾート（ＩＲ）」等を重点に置き、知事の認識を問い質しました。

◎ 代表質問の主な審議過程 ◎

安倍政権のいわゆる「アベノミクス」に基づく円安誘導、物価上昇誘導によって、道民生活や中小企業経営は危機に瀕しており、北海道においてはアベノミクスのトリクルダウン（大きなところが儲かるとその滴が下まで滴り落ちる）などは幻想に過ぎず、全くその恩恵には浴していません。

厳寒期を前にして、これまで以上の燃油価格の高騰や電気料金的大幅再値上げによって、さらに影響は大きくなりますが、道の支援は、中小企業向け制度融資やこの制度の医療機関や福祉機関への活用、さらに、中小企業への省エネコンサルタント派遣等といった小粒の対策となっており、と



土砂災害警戒指定区域内での急傾斜工事の様子

りわけ、低所得者対策は全く考えていないことから、会派として「福祉灯油」へ電気料金再値上げを加味することを提案するなど、地域との連携による実効性のある対策を求める論議を行いました。

また、最近では道内でも、局地的集中豪雨等の異常気象が相次いでおり、広島市や礼文町の土砂災害で表面化した土砂災害警戒区域の指定に伴う基礎調査の遅れ

などが課題となっていることから、道として早急に対策するよう求め、また、さらなる合併を懸念する町村から反発の強い道州制法案の扱いや、ギャンブル依存症の他、反社会的組織の暗躍、多重債務など社会的影響に関する不安が根強いカジノを含むＩＲ構想へ前のめりな知事の動きなどについて、その認識や対応についても質しました。

が、全ての問題に対して自

らの姿勢を明確にすること無く、いつものように曖昧な答弁に終始しました。

本会議中知事は体調不良を理由に本会議を二日間欠席、副知事（事務方）が答弁に立ちましたが、異例の本会議と言わざるを得ず、知事が本会議を欠席するのはこれで三度目となったことから、今後は、知事が答弁に立てない場合は、本会議を休会することも議会運営委員会に申し入れました。

予算特別委員会質疑

今回の予算特別委員会では、道警、環境生活部、総合政策部、総務部の四部局に対し質問を行いましたので、ご報告いたします。

ＩＲについて

今、臨時国会において審議される予定となっている「カジノを含む統合型リゾート（ＩＲ）法案」に基づき、

政府は、全国で都市部と地方に三カ所ほど候補とした方針ですが、高橋はるみ知事は北海道への誘致に前のめりとなっており、シンガポールにまで視察に行き、



道内で4番目にIR誘致に名乗りを上げた留寿都村

(TAFI...金融活動作業部会)での見解について、反社会的組織の介入についてを質問をしました。

また、環境生活部には、ギャンブル依存症の多重債務への影響について、破産法に関する自己破産の免責不許可事由について、青少年への影響に関わり、

政府関係者とも懇談をしてきました。

しかし、このIRの目玉であるカジノは、様々なマインスの側面が有り、このことを抜きにして誘致を進める訳には参りません。

そこで、犯罪抑止を本分とする道警に、刑法第百八十五条賭博罪などに関わる賭博の禁止について、最高裁判決による賭博への保護法益について、マネーロンダリング対策・テロ資金供与対策の国際的政府間合

青少年健全育成審議会」での目的との整合性、「北海道のカジノに関わる今後の審議について等を問い質しましたが、ほとんどの答弁が「今後、政府によって必要な措置が講じらることとなっている」とし、誘致をしながら具体的な対処策について全て政府が対処することを期待し、各部においても知事の政策に支障を来さぬよう腫れ物に触る様な慎重な答弁に終始し、問題の深

刻さや影響の大きさには目をつぶったままであり、知事総括もその域を出ることはありませんでした。

人口減少問題について

日本創成会議や国立社会保障・人口問題研究所が二



委員会での質問の様子

千四十年における人口で、北海道は約四百七万人とか四百十九万人などと発表したことから、高橋はるみ知事は道庁内に部局横断的な組織「人口減少問題対策本

部」を設置し、年度末までに総合的な取り組み指針をまとめるとしましたが、これまで、高橋はるみ知事が就任した年に「北海道地域づくり推進本部」やその後

「北海道少子化対策推進本部」など、地域の人口減少や少子化に対する総合的な対策を推進する本部を立ち上げましたが、その中で実施してきた様々な対策の効果や問題点などについての検証も未だに行われな

策本部としての素案を年内に出し、議論をいただくとして答えませんでした。

IRも人口減少問題対策本部も、単に来年の選挙に向けて打ち上げた花火であり、中身の無い政策として思えません。

川内原発の再稼働手続きについて

鹿児島県薩摩川内市の九州電力川内原発が、規制委員会による新基準審査に適合したことから、規制委員会による住民説明会開催など、再稼働に向かって手続きが始まりました。

高橋はるみ知事は、同じく規制委員会での適合検査が行われている泊原発の再稼働について、「安全性やその必要性などについて、国が丁寧に説明する必要がある」とし、「説明や地元同意の手法については、国が責任を持って明らかにすべき



九州電力・川内原発

である」と答えていましたが、今回の川内原発への手法を見る限りでは、三・一一以前と変わらない手法となつていきます。

このことについての知事の所見と、泊原発再稼働における住民説明会、地元合意の範囲やその手法をどのように考えているか質問しましたが、あくまでも「再稼働にあたっては、立地自治体関係者の理解と協力を得るように国に働きかけて参

りたい」と言う答えを繰り返すだけで、道として地元住民に対する説明や同意について、具体的な考えを示すことはありませんでした。

知事は、大間原発への不安やUPZ圏内にある函館市が求める地元同意の問題は道の問題でもありとしながら、泊原発の再稼働の地元合意には触れたくないようで、これでは安倍総理と同じように二枚舌を使っているという誹りを免れず、

道民の生命財産を守るべきである知事や道の対応とは言い難いと思います。

なお、この他に「北海道新幹線開業に関する諸問題について」「集団的自衛権行使に関わる自衛官について」「日米軍事訓練について」などを質問していますので、詳細はホームページをご参照下さい。

2014 道政報告会を開催しました

8月27日(水)18:30から高橋とおる2014年道政報告会を開催しました。

道政報告の中で、3期12年間の高橋はるみ道政に対する検証プロジェクトでは、政策審議会長として中心となり検証結果の取りまとめを行いました。高橋知事の道政運営の基本は、何をしても国に要請し、難しい課題は国に判断を委ね、国の決めたことには異を唱えずの「要請し、委ね、服従する」というのがその実態であり、知事としての主体性・独自性が発信されず、将来を見据えた政策より目の前の事象への対処が中心となつてしまい、このことが、全ての分野で共通していることを指摘し、北海道の可能性を十分に引き出し、道民とともに汗をかく知事を誕生させる必要があると結論づけたことを報告しました。

当日は、工藤壽樹函館市長、逢坂誠二前衆議院議員、窪田毅北海道知事室長のご来賓に駆けつけていただいた他、仲間である日下太郎道議（オホーツク管内選出）、稲村久男道議（空知管内選出）、北口雅幸道議（士別市選出）も駆けつけていただき、成功裏に道政報告会を終えることができました。



高橋はるみ道政の検証報告と来年の闘いに向けた決意を語る



お忙しい中、激励に駆けつけて下さった、逢坂前衆議(左)と日下・稲村・北口道議(右)

高橋とおるホームページ

<http://www.t-tooru.com/>